

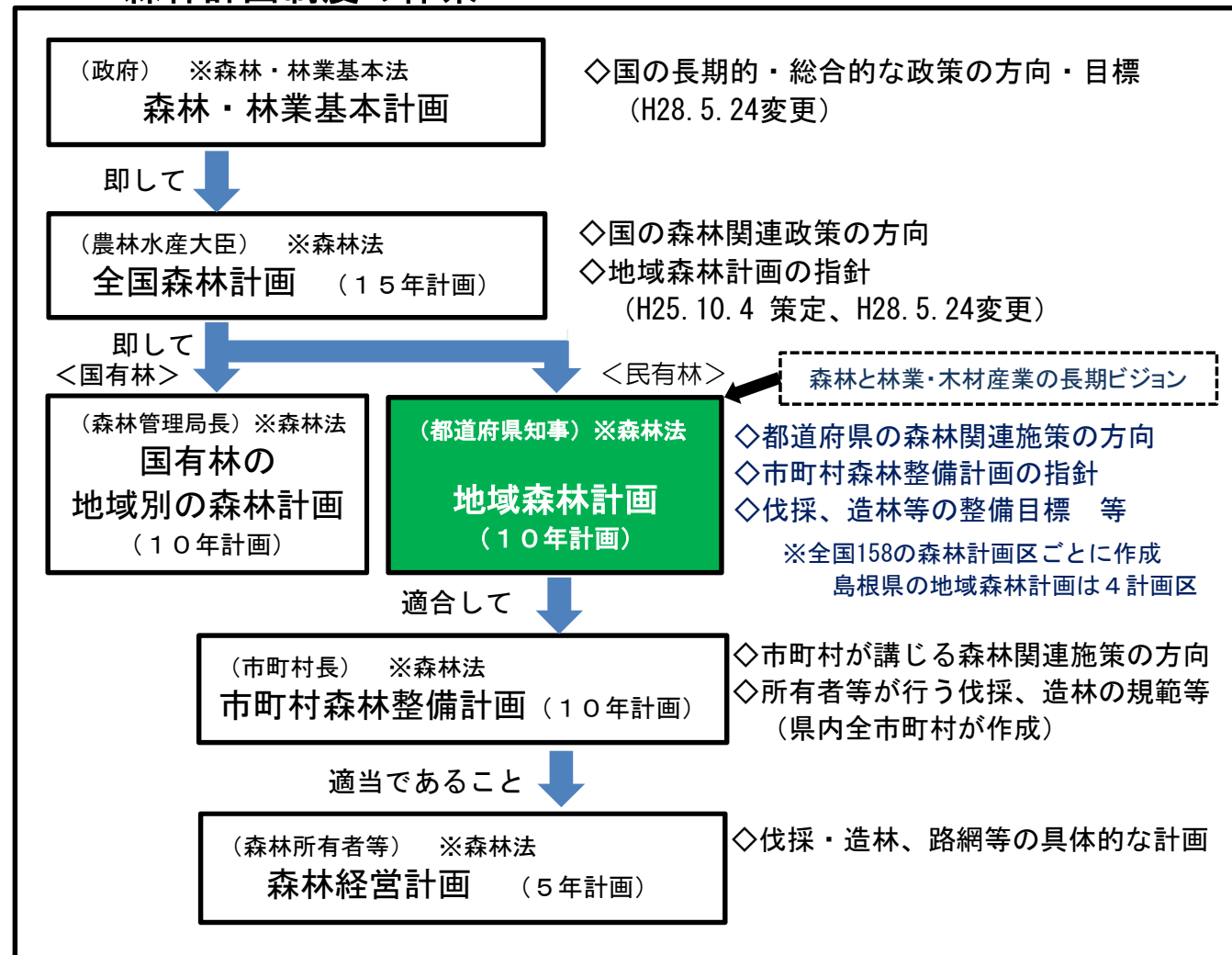
地域森林計画（平成30年4月～）の樹立・変更について

島根県農林水産部森林整備課

資料 1

I. 森林計画制度の概要と地域森林計画

1. 森林計画制度の体系



2. 地域森林計画の樹立期間

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
全国森林計画			変更		樹立			変更		樹立					樹立					樹立
地域森林計画																				
斐伊川			変更	樹立	変更	変更	変更	変更	樹立						樹立					
江の川下流	樹立		変更	変更	変更	樹立	変更	変更	変更	樹立						樹立				
高津川	変更		変更	変更	樹立	変更	変更	変更	変更	樹立						樹立				
隠岐			樹立	変更	変更	変更	変更	変更	樹立	変更						樹立				

【全国森林計画】15年を一期とし、5年ごとに樹立（H25年度樹立、H28年度変更）

【地域森林計画】10年を一期とし、5年ごとに樹立
樹立：斐伊川地域森林計画
変更：江の川下流、高津川、隠岐地域森林計画

3. 主な計画事項

(1) 樹立

- 対象民有林の区域
- 機能別森林の整備及び保全の目標等
- 伐採立木材積等伐採に関する事項
- 造林面積その他造林に関する事項
- 間伐立木材積、間伐、保育に関する事項
- 公益的機能別施業森林の基準、整備に関する事項
- 林道の開設及び改良に関する事項
- 委託を受けて行う森林施業の合理化、経営等に関する事項
- 鳥獣害防止森林区域の基準、鳥獣害の防止に関する事項
- 森林病虫害対策に関する事項
- 樹根及び表土等保全に関する事項
- 保安林の整備等に関する事項
- その他必要な事項

(2) 変更 ※上記の事項について変更する必要が生じたとき

4. H29年度に変更・追加する主な事項

(1) 島根県基本編

斐伊川地域、江の川下流地域、高津川地域、隠岐流域の各計画の次の点を変更

- 木材生産・森林整備に関する技術的指針・基準
「早生樹」に関する記載を追記
人工造林に関する指針に、早生樹を記載
参考として、代表的な早生樹(コウヨウザン、センダン)の施業モデルを記載
- ・林業経営サイクルの短期化
- ・伐採跡地への確実な再造林の実施



(2) 斐伊川地域森林計画区編(樹立)

- 伐採量など目標数量の計画

(3) その他の地域森林計画区編(変更)

- 江の川下流地域、高津川地域、隠岐地域の各計画は次の点を変更
- 対象民有林の区域 (編成調査結果の反映)
 - 林道等の開設・拡張計画 (路線の追加等)

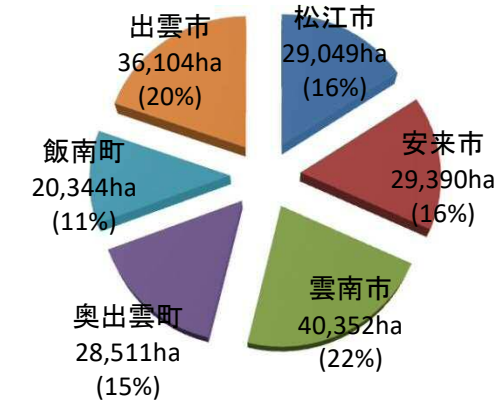
II. 斐伊川森林計画区の概要

1. 斐伊川地域の森林の状況

(1) 森林面積



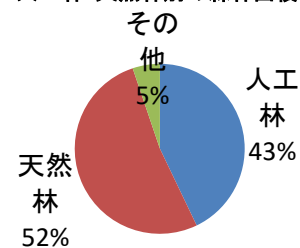
斐伊川地域森林計画対象民有林面積 (市町村別)



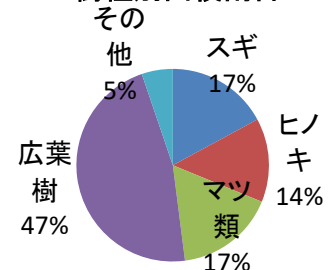
- ・斐伊川地域の地域森林計画対象民有林面積は183,750haであり、県全体(492,271ha)の37%を占めています。
- ・市町村別の民有林面積としては、雲南市が最大で計画区全体の22%を占めています。

(2) 人工林の齢級構成等について

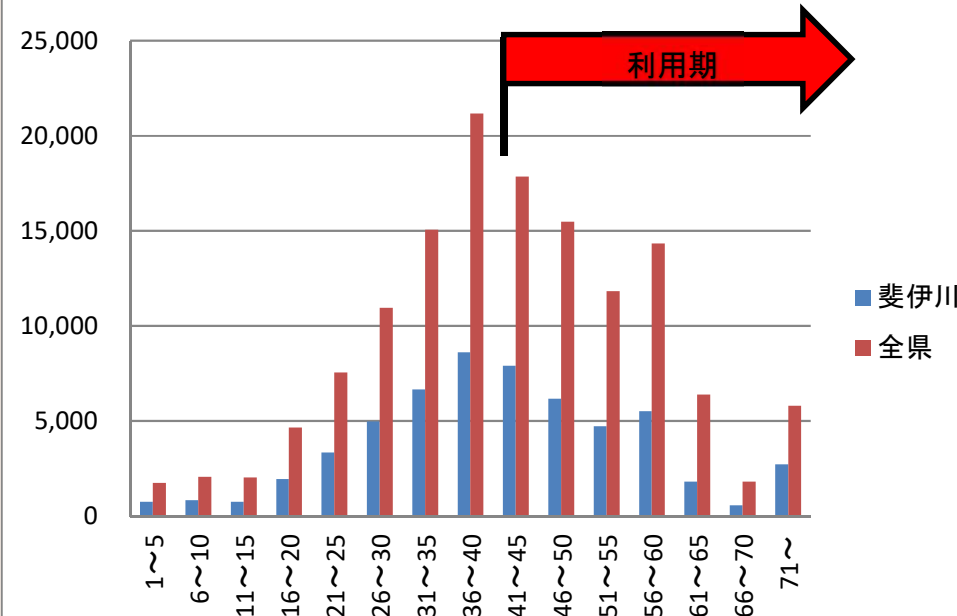
人工林・天然林別の森林面積



樹種別面積割合



スギ・ヒノキ人工林齢級別構成表



- ・計画区内の人工林面積は78,770ha、天然林は95,447haで、人工林率は43%と県平均の38%を上回っています。
- ・スギ・ヒノキ人工林の齢級別構成を見ると、全県とほぼ似たような構成になっています。利用期である41年生以上の森林が全体の51%を占め、10年後には約8割に達する状態となります。

2. 斐伊川地域の取り組みと目標

(1) 取組方針

○施業・経営の集約化

- ・森林経営計画作成に取組み、早急に集約化を進めます。
- ・伐採する前から伐採者と造林者が連携することにより、主伐の促進と伐採跡地の確実な更新を図ります。
- ・一貫作業(伐採と植栽を連続して行うこと)などによる再造林等の低コスト化を推進します。

【現況】

- 森林経営計画作成面積 106,357 ha
- ※民有林に対するカバー率 58% (県平均38%)

○人材の育成(担い手確保・事業体育成)

- ・新たな担い手の確保と、伐出作業に関わるオペレータ等を育成します。

【現況】

- 認定事業体数 20団体
- 担い手の数 445人(延94,745人日)
- 平均年齢 46.9歳(県平均46.2歳)

○生産基盤の整備(路網整備・機械化推進)

- ・路網整備は森林作業道を中心に着実に進んでいますが、運材コスト低減のため林業専用道を推進していきます。
- ・効率的で地域に適応した機械化を進めます。

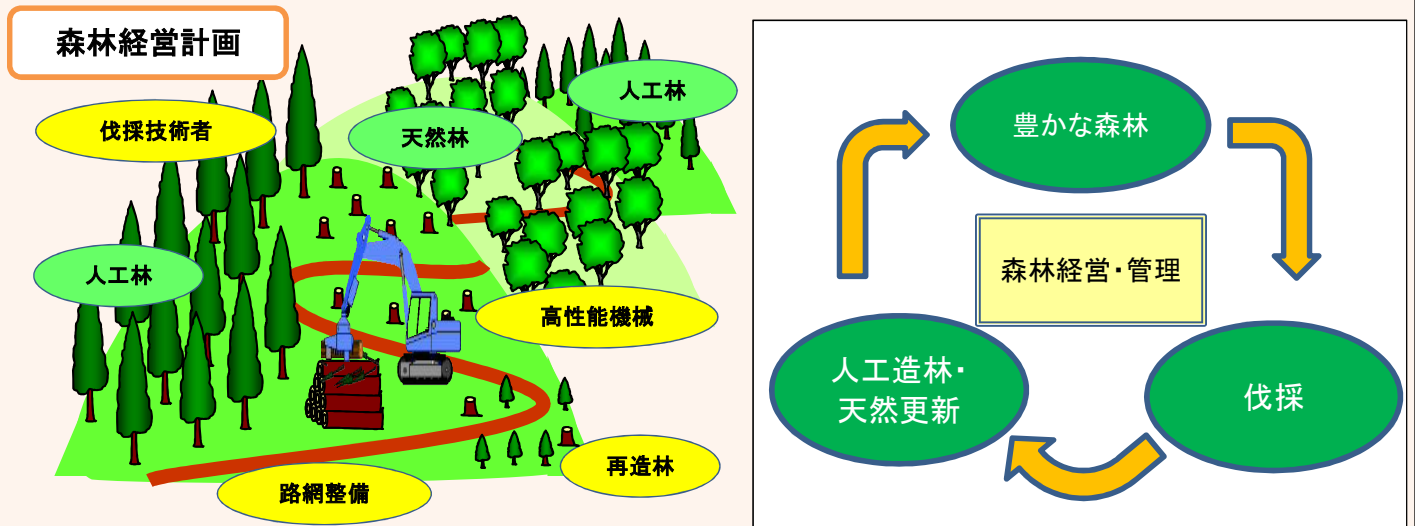
【現況】

- 林道・林業専用道延長 577路線 766km
- 森林作業道延長 1,052路線 1,040km
- 高性能林業機械の配備 75台



(左) 木材生産現場

(右) 森林作業道



(2) 目標

<地域森林計画に登載が必要な計画量(平成30年度~平成39年度)>

- 伐採量 ■主伐 181万m3 ■間伐 90万m3
- 造林面積 ■人工造林 3,350ha ■天然更新 3,600ha
- 保安林期末面積 ■70,959ha
- 治山事業地区数 ■144地区
- 林道等開設延長・拡張箇所数 ■開設 70,420m ■拡張 24箇所

□早生樹の導入について

早生樹は、スギやヒノキと比べ高い成長速度を持ち、短期間で収穫が期待できるため、経営サイクルの短期化が図られるほか、植栽本数の減、下刈り・除間伐の回数減など保育経費の縮減が期待できます。

このため、島根県の環境に適合する樹種のなかで、他県での造林実績があるなど施業方法がほぼ確立しており、かつ、材の利用の可能性(収益性)が期待される樹種から導入していきます。

今後、早生樹の特性や施業方法などの普及指導と、植栽の意向調査及び適地調査を実施していきます。

□代表的な早生樹種

【コウヨウザン】

分 布: 中国南部地域と台湾。日本では宮城県及び新潟県以西～九州まで広く分布(外国産)。広島県庄原市に54年生の造林地がある。

特 徴: ヒノキ科コウヨウザン属の高木性針葉樹。

スギの 1.3 倍程度の樹高成長を示し、伐採後に萌芽更新をする。萌芽枝の成長は旺盛で下刈りの省略が期待される。

生育適地: スギの植栽に適するような土壌が深く、湿潤な条件である湿潤・肥沃・排水性の良い谷部や緩斜面を適地とする。加えて、ヒノキの適地においても良好な事例がある。

伐採周期: 1 サイクル 30 年

材 質: 材は淡黄色を呈し、耐蟻性、耐朽性を有する。広島県の強度試験では、平角材の曲げ強度、縦圧縮強度、せん断強度はスギやヒノキを上回り、めり込み強度は下回るという結果がある。

用 途: 建築材、合板、チップなど



(上)コウヨウザン 9 年生

(下)コウヨウザン製材



【センダン】

分 布: 日本では九州、四国、小笠原、沖縄に分布(国産)。九州や近畿で造林が広がりつつある。

特 徴: センダン科センダン属の落葉広葉樹。

高い成長量が特徴であり、樹齢 20 年で樹高 20m、胸高直径 50 cm の成長が報告されている。植栽初期から成長が良好な為、下刈りの省略が期待される。また、伐採後には萌芽更新をする。

直材を採材するためには頂芽だけを残し、それ以外の側芽を取り除く、「芽かき」を約 2 年間する必要がある。

生育適地: 水分・養分・陽光の要求度が高い樹種であり、湿潤・肥沃・排水性の良い谷部や緩斜面、平地を適地とする。

伐採周期: 1 サイクル 20 年

材 質: 材面はキリやケヤキに似ており心材は淡黄褐色、辺材は黄白色ではなはだ狭く心辺材の区別は明瞭。材色はケヤキよりも赤みを帯びることが多い。ケヤキやキリの代替材として使われることが多い。

用 途: 板材、家具材、チップなど



(上)センダン 16 年生



(上)センダンを用いた家具